

図書室だより<4月>

町民センター3階

今月のこの1冊

築地市場 絵で見る魚市場の一日

モリナガ・ヨウ 著

日本一の魚市場である築地市場は今年の11月に豊洲へ移ることが決まっています。この本は、移転前の築地市場の様子や市場で働く人の仕事ぶりを一日の時間の流れにそって、たくさんのイラストで紹介している本です。

海で釣られた魚が私たちの近所のお店に届くまで、築地市場では何が起こっているかをわかりやすく説明しています。

観光では見ることができない時間帯の市場の様子なども詳しく書かれています。



みんな集まれ！子どもの広場・おはなし会

◇子どもの広場

内 容 「バランスゲーム」をつくります

日 時 4月16日(土) 10:00～

持ち物 はさみ・カラーペン

対 象 5歳～(未就学児は保護者同伴)

場 所 町民センター2階 小会議室A

申し込みは直接図書室へ 又は、☎82-5221

毎月1日は、【開成ファミリー読書デー】 家族みんなで本を読もう！

【開室時間】火～金曜日 10：00～20：30
土・日曜日 10：00～17：00
祝日29日 10：00～17：00
【休 室 日】毎週月曜日・蔵書点検 19日～22日
※貸出冊数は4冊まで、期限は2週間です

新しく購入した図書（主なもの）

● 一 般 書 ●

・情け深くあれ	岩井三四二
・また、同じ夢を見ていた	住野よる
・ガンルージュ	月村了衛
・櫂を、君に。	蓮見恭子
・幹事のアッコちゃん	柚木麻子
・ビューティキャンブ	林真理子
・うちの子になりなよ	古泉智浩

● 児 童 書 ●

・てんきのいい日はつくしとり	石川えりこ
・きょうはかぜでおやすみ	パトリシア・マクラ克蘭
・デパートねずみルーシーのいそがしいいちにち	ジョー・ウィリアムソン
・うまれたよ！ホテル	中瀬潤
・だれかぼくをぎゅっとして！	シモーナ・チラオロ

◇おはなし会（第2土曜日、第4水曜日）

日 時 4月9日(土) 10:30～

4月27日(水) 15:00～

場 所 町民センター3階図書室

申し込みはいりません

●家庭・地域・学校などでの読書活動を推進するため、
開成町では毎月1日を「開成ファミリー読書デー」にし、
読書活動を推進します。

*文 芸

開成俳句会 俳 句

三月吟

掘り返す鉄に重たき春の土
そよ風に木々のささやき土匂ふ
ふんわりとたんぼの絮眩しかり
猫柳のひと際目立つ華展かな
土匂うギリシャ神殿丘の上
たんぼの絮の行方や今朝の晴
産土の畦に明るき鼓草
日射し中地震にも堪へし鼓草
たんぼばやバズル解けたる碧い昼
たんぼばや双体神の傾きて

蒲公英の絮毛に託す平和かな
キク科の多年草、日本に20種位近年は帰化種が目立っている。花の形を鼓に見立て別名は鼓草とも言う。白い絮を吹く遊びも楽しい。そんな景を思いながら作者は、混沌としている現代、平和を願いつつ絮毛を飛ばしているのである。下五に作者の熱意を感じる秀句です。

新井たか志 選評

波多野すみ枝

濱本 主雄

下澤 操子

有賀 孝子

瀬戸 悦子

遠藤シヅ子

遠藤マツエ

遠藤まつ子

遠藤美津子

選者吟

ともしび短歌会 短 歌

二月詠

買出しにマイカーならぬサイクルで

思ひ出しにきー三浦環を

石井はま江

昔はマイカーで、今は自転車を買出しをしているが、自転車と言えば、日本人女性で初めて乗車した三浦環の逸話を思い出したという。「だし・き」音の重複の面白さと作者の博識さが生み出した歌。

※三浦環 一八八四～一九四六年。ソプラノ歌手。日本の生んだ初の世界的プリマドンナ。（自転車で、上野の杜の東京音楽学校から傍の堀をひるがえし下りて来た。逸話は有名。当時とすれば何と早くも便利と思ったのだろうか。（作者の談）

生け花の師匠は白寿の媼なり

嬰鏢として範たり給ふ

府川ハツエ

作者の生け花の師匠は、九十九歳の老女性。未だに現役で、心身ともにきわめて元気。生け花のみならず生き方までも模範を示されておられる人物。敬意を払い憧れのまゝとて称賛している。

※白寿 一「百」の字から「」を取ると「白」になるのが九十九歳。また、その祝い。嬰鏢 一老年になっても、心身共に元気のよい様子。

子等が引く屋台は辻を廻らして来ぬ

熱き掛け声こだまして来ぬ

諸星 未子

祭りの曳き屋台は、大小を問わず、辻を廻る際、舵取りで緊張し掛け声が高まる。作者は、子らが曳く屋台を目撃していないが、今、どのような状況であるのか、音声だけで見事に描出している。

近藤 正臣 選

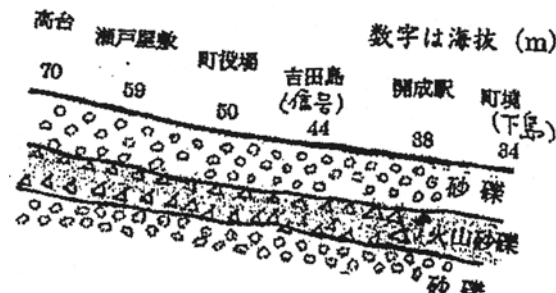
開成町のいまむかし<1>

この町に住んで100年目の方も、100日目の方も、皆さんで確かめる開成町の「いま」と「むかし」。このコーナーでは、今月から12回にわたり、文化財保護委員とともに町のいまむかしをたどります。

問 教育総務課 ☎82-5221

開成町の誕生と気候

一九五五年、酒田、吉田島の二村が合併し、小学校の名前をとり開成町が誕生しました。当時、吉田島から都内に通っていた私は、島から通ってくるのかとまじめに聞かれました。島には微高地の意味もあり、よし（葦）の生えた微高地が吉田島です。酒田は酒造り用の米の産地で、昭和後期には皇室献上米も栽培された純農村の水田地帯でした。年間の平均気温は十六℃、降水量は一七八〇mmです。雨はほどよく雪は少なく、温暖で暮らしやすい土地柄です。町は酒匂川の扇状地の上にあります。最高海拔は北部高台付近で七十m、最低海拔は南部下島で三十四m、高低差は三十六m、ゆるい坂の上の町で、自転車で移動すると坂を実感します（図参照）。地層は酒匂川の砂礫帯（小石や砂）で、小石と小石のすきまがクッションになり、地震の揺れをやわらげるとい



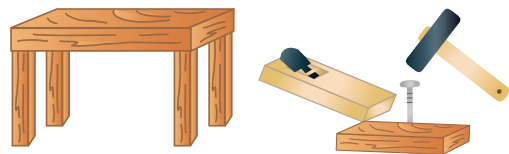
縦断面図（井上作図）

れます。地震の時、開成町の震度は周囲より1少ないとの町民の鋭い指摘があります。今後注目しましょう。町に残る言い伝えに「：台風の時丹沢おろしの東の強風、明神ヶ岳が見えていると好天：」などがあり、ともに根拠があります。防災やお洗濯のご参考に。

こんな感じで、いまからむかしにさかのぼります。来月は、町の広さと人口構成（外国人を含む）がテーマです。

文化財保護委員会 井上 東亜

生き生き レポート



問 文命中学校 ☎83-1386

開かれた学校づくりに一役「おやじの会」

文命中学校には、生徒の父親たちを中心に、成長する子どもたちと一緒に見守り、中学生の健全な育成を願って様々な活動に取り組む「おやじの会」があります。今年度で発足17年目を迎え、地域のお祭りや夏休みの夜間バトロールをはじめ、校内美化作業、ベンチづくり、また、文化祭では職員・PTAとともに合唱に参加するなど父親パワーを発揮しています。

「おやじの会」による主体的な活動が、開かれた学校づくりをさらに推進しています。

教頭 小田中大直



おやじの会とともに、校内奉仕作業。ドリルを使ってベンチづくりに奮闘する生徒



スクールボランティアと一緒に、ベンチを制作したおやじの会のメンバー